

10月13日に東京で開催された。予定では、全連小研究協議会島根大会開催に合わせて松江で行われることになっていたが、新型コロナウイルスの影響により、松江会場と東京会場をオンラインで結んでの大会となり、理事会も東京での開催となった。

大字会長の挨拶では、自校の様子から子どもの笑顔の大切を感じると共に、大事なものは続けていくことの大切を感じたとの内容から挨拶が始まった。次に教員採用選考の件に話題が移り、倍率が危機的状況にあることについて説明があった。そのための策として、ペーパーティーチャーをどう取り込むか、また、選考に日程の早期化について文部科学省へ呼びかけていることなどを話された。さらに教育実習の早期化についても考えていることが出ている。

また、アンケート調査から先生になりたいきっかけが「自分がお世話になった先生にあこがれた。」との回答が多かったことから、私たち校長が教員を大事にして元気で働いてもらうことが、10年後20年後のよい先生を作ることになり、持続可能な教育につながるという内容で締めくくられた。

報告事項としては、始めに会務や会計についての報告があった。

次に、研究大会についての説明があり、今年度の島根大会開催までの経緯などの説明の後、次年度の東京大会の説明があった。次年度の東京大会は、フルサイズの参加人数として、開催予定であり、国や東京都から行動制限がでない限り、参集して予定通り開催する方向であることの説明があった。

要望活動として、7月に行われた要望活動内容の説明が行われた。教職員の確保については、①新規採用選考の開催時期を前年度の秋ごろや通年などに変更など見直し、②奨学金返金の優遇措置、③高等学校に教職コースを設置、などがあつた。子どもと向き合う時間確保については、基礎定数の改善と共に教員一人当たりの持ち授業時数の考え方の導入などがあつた。新型コロナウイルス防止対策としては、養護教諭の加配や看護師経験者等の配置などがあつた。

また、全連小75周年記念事業については、記念誌の発行を予定しているので、各校長室に置く体制としてほしい旨の話があつた。

次に、岩手県から震災等災害被災県としての報告があつた。情報交換では、「校長の研修について」をテーマとして、様々な都道府県の理事でグループを作り、グループ協議が行われた。他の県の状況を知ることができ、よい情報交換ができた。